

(別紙 1)

令和 7 年度 学生による地域課題解決提案事業 企画書 (記入例)

下記について、A 4 用紙 2 枚程度にまとめてください。別途、図などを添付しても構いません。

大学名・短大名 高等専門学校名		コンソ岐阜大学
所属団体（発表団体名）		コンソ岐阜ゼミ
代表指導教員 氏名・連絡先	所属 職位・役職	コンソ岐阜大学 コンソ岐阜学部 教授
	ふりがな	こんそ たろう
	教員氏名	コンソ 太郎
	TEL	000-111-2222
	E-mail	forexample@consortium.ac.jp
代表学生 氏名・連絡先	所属・学年	コンソ岐阜大学 コンソ岐阜学部 2 年生
	ふりがな	こんそ はなこ
	学生氏名	コンソ 花子
	TEL	333-444-5555
	E-mail	Forinstance@consortium.ac.jp

1 テーマ【成果報告会の発表タイトル】

創造的思考を育てる小学生プログラミング教育振興

2 地域との連携および解決提案の方向性

○ 地域連携・産学連携の視点などから具体的に記載

岐阜県においては、「岐阜県デジタル・トランスフォーメーション推進計画」（※対象年度 2022 年～2025 年）が定められており、同計画内の「各分野の DX」における「教育」の項目では、＜産学官連携により、未来の創造につながる学びのあり方＞について記載されている。

加えて、新小学校学習指導要領により、令和 2 年度から「プログラミング教育」が必修化されているが、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響等もあり、岐阜県内の小学校・義務教育学校においては、十分なプログラミング教育の普及啓発が図られているとはいえない状況がある。

そこで、本学ではコンソ岐阜新聞社との産学連携事業として、岐阜県内の小学生（含む義務教育学校）を対象としたプログラミング教育の普及啓発と、子ども達の考える力・表現力を含むプロデュース力を育てることを目的に、全国プログラミングコンテスト岐阜県大会を開催（共催）する。

なお、審査は本学教員他が行うが、本学学生も審査・指導・助言等といった形で参画を予定しており、児童への普及啓発に加え、参加学生の ICT 利活用能力を高める効果も期待される。

また、本大会は全国大会への出場者の選考を行うが、目的はプログラミング技術の競争ではない。応募・審査を通じて、地域の子どもたちの創造性を育み、保護者、ひいては岐阜県民のプログラミングに対する関心を高め、地域社会全体の DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進することを第一義の目的としている。

3 研究課題・分析手法の意義（調査研究または実践活動の概要） ○ ニーズ調査、意識調査、事例調査、実践活動の具体的内容を記載 実践活動： 小学校１年生～６年生までのプログラミング初心者＋その保護者を対象としたプログラミング体験会を開催する。体験会には児童・保護者を併せて、最大１２０名程度の参加を想定している。 コンテストは、第１次審査と最終審査を予定しており、第１次審査に１０名程度の学生が関与する。 また、最終審査を通過し全国大会（２０２５年３月予定）に参加する代表児童（１名）に対し、翌年１月頃にプレゼンテーション制作（映像他）に係る指導助言等を学生が行う予定である。 意識調査： プログラミング体験会及びコンテストのウェブサイトにおいて、プログラミングに対する児童・保護者の意識調査、著作権等に関する意識調査等を実施する。
4 研究等の構成員（学校、学科、学年、氏名等） ・ コンソ岐阜大学 コンソ岐阜学部 ２年生 １０名（コンソ 花子、・・・） ・ コンソ岐阜大学 コンソ岐阜学部 教授 １名（コンソ 太郎）
5 研究計画実現の可能性（活動スケジュール） ７～８月 ： プログラミング体験会と意識調査の実施 １０月 ： プログラミング応募作品の第１次審査 翌年１月～： 全国大会出場者（１名）と保護者へのプレゼンテーション政策に係る指導助言等
6 当該課題解決は、次年度以降も持続可能かどうか、記載してください。 ゼミ活動の一つとして行っているため、今後も継続して活動を実施する予定である。
7 他のプロジェクトの一部である場合は、そのプロジェクト名及び助成金額を記載してください。 特記事項なし

以 上